

## 連載 環境教育—する人、される人

### その一 別腹（べつばら）症候群

— ごあいさつにかえて —

（ファミリーOH）

別腹（べつばら）……お腹は満杯なんだけど、甘いものが入るところは別腹なのよね、というあれですね。

環境問題もいま「別腹症候群」がばっこしています。環境問題の大切さはよく分かるし、ライフスタイルを見直さなければいけないこともよく分かるけれども、欲しいものは欲しいし、便利なものもだーい好き。そういうアンチ環境保全行動への衝動は別腹なのよねというわけ。

わたし自身、たとえば、「お酒の紙パックは内部がアルミコーティングされているのでリサイクルには不向きです。お酒はなるべく一升瓶で買しましょう」というようなことを人前で言ったりしますが、実際のところは5回に1回はずつつ紙パック入りのお酒を買ってしまうという体たらく。

「建前と本音」と言い換えてもいいかもしれませぬ。

わが家は、環境対策で生計を立てているわけですから、建前の部分は何がなんでも守らなければいけないという立場ですし、家族それぞれの生き方を眺めてみても、別腹意識は比較的薄い方かもしれません。

それでも尚かつこの有様……ということをごこれから書いてみたいと思います。ひょっとしたら、それによって環境問題を取り巻く別腹症候群の中味が見えてくるかもしれないという淡い期待を込めて。（教える人）

学舎を巣立って四半世紀も経つというのに今なお悪夢にうなされて目覚めることがあります。試験問題がまだ一問も解けていないのにもかかわらず、無情にも終業のベルが鳴り響くのです。

実際にそのような場面に遭遇したこともなかったし、落第の憂き目を見ることもなかったのに……それほどにわたしの中の劣等感が強かったのです。特に、数学とか物理・化学の類の科目に対しては思い出すのも嫌になるほどの重症。

そんなわたしがひょんなことから、環境分野の職場に就職することになりました。もちろん、その頭脳を期待されたわけではなく、現地採用枠としての雇用であったのは言うまでもありません。

お茶くみとコピー取りの日々の中に見え隠れするものは舌を噛みそうなカタカナの化学物質名と亀の甲記号ばかり。僅か2年で音を上げ選択したのが寿退社の道。ところが、その相手たるや同じ職場の先輩という大失態。環境と名の付く職場での社内結婚。とくれば、さぞや環境問題に強い一家と誤解されがちですが、さにあらず。妻たるわたしは未だに理解できないことばかり。何かと話題のダイオキシシンにも正式名称があると知ったのはテレビのお笑い番組の中のクイズコーナーからというお粗末さであります。というわけで、素人故の無知をさらけ出すことにこそ意義があると開き直りの気分。環境教育を受ける側として何かを発信出来れば幸いです。

PS. 蛇足ながら、酒パック云々は大嘘。頻度としては5回に1回位は1升瓶で買い求めても、あとはすべて紙パックに手が伸びるというのが悲しい現実であります。（教わる人）

## 連載 環境教育—する人,される人

### その二 お得感のライフ・スパン

(ファミリーOH)

いささか鮮度の落ちる話題で恐縮ですが、5月半ばの朝刊に気になる投書が掲載されておりました。

「ゴールデンウィーク中に可燃ごみの収集が滞り、大量のごみを抱えて難儀した。自治体はリサイクルや分別に力を注ぐのではなく、休日収集についても考慮すべきだ」という内容でした。特に生ごみの臭いは耐え難く精神衛生上もよくないと、かなり御立腹の様子です。

たしかに日を置いた生ごみの臭いはひどくなるばかりなので、定期的に収集に来てくれるのは嬉しい。しかし、一旦出されたごみの行く末について思いを巡らす人は殆どありません。漠然と、税金が費やされていることは理解していても、それがどれほどの額になるのかも実感できません。休日収集を行えば人件費もかさむ、つまりは近頃何かと話題の行政改革の流れに逆らうという矛盾にさえも気がつきません。

もし、ごみ関連の事業を民間ですると仮定して……『お客様』のご要望通りに年中無休で収集しますが、休日料金はかなりの割高になります……となった場合、それでも件の投稿者はそれを望むのでしょうか。

そんなことを考えていた矢先、その投書に対する意見が同紙に掲載されました。

「ごみ まず減らす工夫をしよう」という見出しで、ごみ減量化の具体案 — 計画性のある買い物と献立・コンポストの設置等々 — を列挙した後、「増え続けるごみをそのまま

にしていれば税金はますますかさみ、結局は自分たちに跳ね返ってくるのだ」と結ばれていました。

うーん、なるほどねえーと思いつつも、隔靴搔痒の感は拭えません。具体的且つ明確な数字、つまり「損か得か」の図式が見えてこないのです。ごみ集積場に出す前の段階で各自が僅かの労力を惜しまなければ、それから先の収集・運搬・処理・処分の費用が大幅に軽減される。そうして浮いた分を別のもっと有用な用途に投入する。例えば、老人医療費の自己負担金が軽減されるとか、学校給食の完全公費負担等々。はっきりと目に見える形で「お得感」を打ち出してくれたら、今よりもごみ行政に関する市民の意識は高まるのではないのでしょうか。

赤字だらけの家計簿を突きつけて、「酒やタバコを少しは我慢してくれたら、いつかはアンタの欲しがっていた〇〇も買えるんだけどねえ」と嫌みのひとつも言いながらぐうたら亭主をうまく操るしっかり者の妻がいてもいいと思うのです。

いえ、我が家のことではありません、念のため。 (なんてたって主婦)

月2万2千円も費やしていたタバコをすっぱりと止めたときは、「なんて裕福になったんだろう」と感動したものです。かなり気が大きくなって、飲み屋に寄る回数も増えたり、娘へのおみやげもちょっとは太っ腹になりました。しかし、そのお得感・ぜいたく感もせいぜい2ヶ月目までで、1年間経過した現在は、以前にも増した慢性的な貧乏感に苛まれているのですから、「経済的手法の課題はそんなところにあるのだろうか」としみじみ思う今日この頃なのであります。(頑張る禁煙者)

## 連載 環境教育—する人、される人

### その三 便利は金で買え

(ファミリーOH)

いつも利用しているスーパーのレジ脇に募金箱が置いてありました。釣り銭として受け取ったであろう1円玉や5円玉の中に切手大のシール状のものがかなり混じっているのが、透明な箱の外から見て取れます。レジ袋不要の客に渡されるサービス券で、何枚か集めると100円程度の額にキャッシュバックされるという代物です。

しかし、残念なことにこのサービス券の稼働率は芳しくないようでした。

先ず、レジ係りにこのサービスを導入しようとする積極的意志が見受けられないこと。レジ袋を渡すという行動パターンが確立している中に、異なる所作を強えられるのは迷惑のようです。

それでも、毅然とした態度でレジ袋を拒否してサービス券を受け取ったとしても、その券、単独では機能しません。まとまった枚数になるまで、管理する手間を考えたら、自ずと、行き先は募金箱へととなっているのが実状のようです。

半ば紙屑入れのようになってしまった募金箱の中。あの券は、枚数を数え、正当に評価し、換金されているのだろうか。苦々しい思いで眺めておりましたが、最近、撤去されたようで、そのサービスも廃止されました。

結局、「環境に優しい」というイメージ戦略は頓挫したのか。それとも、初めから見せかけのポーズだったのか。

もし、本当にそれを目指したのであれば、やはり、レジ袋の有料化しかないと思うのですが…

只で手にできるものに対して人は無関心ですが、たとえ少額であってもお金を出すことには結構シビア。計算が済んだ後で、レジ袋代〇円加算なんてやられたら、「そんなもん要りません！」という気分になるものです。

「どこのスーパーでも客足が遠のくのを畏れて、なかなかレジ袋の有料化に踏み切れないんだよ」と我が家の師匠は鼻で嗤います。

しかし、そこにしかない付加価値があるのならば、買物袋持参でも人は集まる。その付加価値とは何ぞやを考えるのが、今後のスーパー生き残り戦略ではないかと思うのです。

ちなみに、件のスーパーの次なる作戦はポイントカードの導入。買物額に応じて毎月抽選が行われ、景品が貰えます。我が家では続けて2回、卵10個パックが大当たり。

まんまとそのその戦略に乗っかってしまったわたしって、なんと単純な人間でありましょうか。嗚呼… (袋に詰める人)

-----  
大きい声では言えないけれど、

「レジ袋って意外と便利なんですよね」

ごみ箱の内張りとして使うと清潔だし、ちょっとした小物を収納する時や、何よりも旅先で汚れた下着を入れておくのに便利。だから、まあ、そんな目くじら立てないで。

一方、

「このご時世に、レジ袋くらい止められなくてどうするの」

手提げバックを車のダッシュボードに入れておけば邪魔になることもないし、古いレジ袋をきれいに折り畳んでハンドバックに入れておけば何回でも使うことができる。

「だいたいねえ、そんなに役に立つというのなら、お金出して買いなさいよ、ねえ、え！」

そんな議論をもう少し煮詰めておいた方がいいのかもしれない。(その袋を運ぶ人)

**連載** 環境教育—する人、される人

その四 非行をつくる(?)ペットボトル

(ファミリーOH)

いつもなら床面にざっと掃除機をかけるだけの娘の部屋なのに、その日に限って妙に気にかかる押入の中。覗いてびっくり。

そこには、ペットボトルの空容器がズラリと並んでおりました。中には飲みかけの物もあり昨日・今日の仕業とは思えない状況です。

当時、娘は中学3年生。アトピー性皮膚炎で長くお世話になっていた先生が急死されて別の医者に替わったばかり。それまでの対症療法とは違い、徹底的な食事療法が始まりました。合成甘味料の入ったジュースなんて、もってのほかという厳しいお達し。

でも、一度知った密の味。そうそう簡単に止められるモノじゃない。で、親の目を盗んで始めたのが隠れタバコならぬ隠れジュースだったという次第。

缶ジュースは開けたら最後。飲みきってしまわないと困るけれど、ペットボトルにはそれが無い。好きなだけ飲んだら、また栓をして持ち運べる。空になっても栓をしておけば臭いも漏れないし、衛生的。押し入れに隠していてもばれない。そう読んだ娘の妙案も発覚してしまえば、一卷の終わり。

これをきっかけに食事療法も中止と相成りました。しかし、年齢的なものなのか、その後、アトピーの方はだんだんと落ち着いてきてまして、まずは目度し、目度し。

というわけで、晴れて解禁となったペットボトル。後かたづけをするわたしは大変です。

先ず、燃やすのか、否か、も曖昧。「資源ゴミとして回収します」と言われても、どん

な風に再生されるのか、さっぱりイメージが湧きません。

それに比べて、スチール缶やアルミ缶は分かり易い。溶解され、もう一度、商品として生まれ変わる図が容易に想像できます。リサイクル運動に少しは貢献できるという達成感もあって、わたしは好きです。

どんなものに生まれ変わるのか、すぐに思い浮かべられるようになったら、ペットボトルだって、互角に戦えるのに……あれこれ考えていたら、ありました。

昨年、大ブレイクしたフリースの防寒衣料。軽くて、暖かくて、おまけに価格も手頃で、今年も重宝しそう。ちょっと、ペットボトルを見直した寒がりのわたしであります。

(おんな・こども、です)

な～んかシャクにさわるんですね、ペットボトル。もともとは使い捨て商品の代表格、物質文明社会の悪しき落とし子………だったはずなのに、いつに間にかツーンとお澄まし顔で、「私、優等生よ」と言われても納得できない。フリースだかなんだか知らないけれど、「ペットな緑茶」のあのCMの娘も可愛いけれど………それ、日本語じゃないぞ。

まるで、勘当したはずの悪たれ息子が何くわぬ顔で戻ってきて、気障な仕草で女の子の人気取りに精を出す。そんな感じです。

リサイクルといったら新聞紙でしょう。鉄板でしょう。スチール缶でしょう。百歩譲ってアルミ缶でしょう。あんたは違うでしょう。

それでも、そんなにいい格好をしたいというならば、まずは、市町村の手を借りずに自分自身で回収して欲しい。それでフリースにでも何でも生まれ変わるというのなら、許してやろうじゃないですか。

(お・や・じ、です)

## 連載 環境教育—する人,される人

### その五 よいコンビニ 悪い便利

(ファミリーOH)

明けまして、おめでとうございます。

昨年中は、私どもの拙文にお付き合い下さりありがとうございます。今年も引き続き、ご愛顧のほどを。

さて、お正月のおせち料理。用意すべきか否か？毎年年末になると、わたしは悩みます。

「おせちなんで、すぐ飽きちゃうし、作っても無駄だよ」と子どもたちが冷やかに笑うのです。

食べ物の嗜好が変化してきているのも、その一因でしょうが、とにかく、近年、おせち料理は分が悪い。その上、元日からコンビニやスーパーも営業しているので、無理しておせち料理を作り置きする必要もないようです。

実際、大量に残った『おせち』を如何に始末するか。悪戦苦闘することを考えれば、子どもたちの指摘通りに、作ること自体、止めてしまった方が賢明だと自覚してはいるのですが・・・

しかし、わたしは、伝統とか、習慣とかにこだわりたい。そもそも、流通がストップしてしまうお正月くらいは保存食でもある『おせち』で過ごそうという先人の知恵もあった筈。実は、子供の頃のわたしもあまり「おせち」は好きではなかったけれど、お店自体が閉まっていたので我慢するしかありませんでした。

とすれば、「諸悪の根元はコンビニ！」とあらぬところに矛先が向かうのであります。欲しい物がすぐに手に入る生活は快適ではありますが、裏を返せば、それだけ人間に堪え性がなくなってきたということ。無い

無いなりに工夫して、その不自由ささえも楽しむというくらいの余裕を取り戻したい。

こんな風に考えてしまうわたしって、やはり時代に取り残られてしまっているのでしょうかねえ・・・ (‘過去’にこだわる人)

別に喧嘩を売ろうというわけではないのですが、わたし、コンビニの味方です。

たとえば、たった1個のあんパンを食べたいという時、コンビニは気楽です。あんパン1個つかんでレジに持っていっても嫌な顔をされることはありません。

その点、スーパーはちょっと恥ずかしい。別に必要があるわけでもないのにミエと勢いでついあれもこれもと買ってしまいます。

あんパン1個だから「レジ袋はいらないよ」といっても、「それではシールを」などと白けたことも言いません。なにしろ、レジから外へ出るまでたったの5歩の距離ですから。

店員との会話の数だって、スーパーの比ではありません。「お弁当、温めましょうか」なんて、スーパーが言いますか。店員と一緒に、おでんを選ぶなんていう、すごく暖かいこと、スーパーがやりますか。

つまり、スーパーマーケットが犯してきた2つの大罪、「大量販売・大量消費」と「コミュニケーション欠落販売スタイル」、これを見事に払拭したのがコンビニなんですね。

しいて、問題をあげるとすれば、名前です。いまどき、<コンビニ>なんてのはいけません。利便性を追求するライフスタイルが、現代の環境問題を引き起こした諸悪の根元だとすれば、「便利なお店」なんていう名前は、「バージンパルプ100%使用」を売り物にするティッシュ・ペーパーにも匹敵する時代錯誤です。名前を変えましょうよ、コンビニエンス・ストア。 (‘今’に迎合する人)

## 連載 環境教育—する人、される人

### その六 夜間収集とサービスレベル

(ファミリーOH)

幸か不幸か、生まれ育った土地を離れて暮らした経験が一度もありません。まさに「井の中の蛙」、わたしの常識は世界の常識なのであります。

で、テレビなどで朝のごみ出しの場面などを目にとると面喰らってしまいます。

わたしたちの地域は昔からごみの収集は夜間に行われているのです。夕食の後片づけを済ませて家中のごみをかき集めて出しておけば、日付が変わる頃には回収に来てくれます。朝の慌ただしい時間を割くこともない。知恵者のカラスだって真っ暗闇では手も足も出せない。さらに、夜間だと車の通行量も少なく、収集車の運行もスムーズ。昼間に比べたら格段に作業の能率アップが期待できる。

いいことづくめのような夜間収集も実施されている地域はごく僅か。もう少し受け入れられてもよさそうなのにと、またしても例の師匠に尋ねたところ、「危険を伴う夜間作業は人件費も割高。大都会では渋滞緩和を期待できるが、交通量の少ない田舎では全く無意味」と至極もつともな回答が返ってきました。

なるほどと思いつつも、気になって井戸端会議のついでに近所の奥さんたちに『夜がいいか、朝がいいか』を質問。

実は、数年前からわたしたちの市では夜間収集に伴う人件費の補填と受益者負担の観点からごみ袋の有料化を導入しました。従来からこの地に暮らし夜間収集を当然としてきた住民にとっては「何で今更」という不満の声もあります。でも、よそから移り住んだ人たちは夜にごみ出しできるようになってよかったですと言います。寸暇を惜しむ朝のごみ出しは

大変。特に共働き家庭においてはかなりな負担であった等々。少しばかりごみ袋代を負担したとしても、ゆっくりと余裕を持って出せる夜間収集の方が歓迎されているようです。

我が意を得たりの気分なのでありますが、只一つ告白しますと…夜遊びが過ぎて帰りが遅くなった時にごみ出しが間に合わなかったことがあります。以来、「収集車が来るまでにはお家に帰ろう」を肝に銘じている専業主婦のわたしです。 (夜間派)

カラス対策とか交通渋滞の回避、あるいは逆に夜間騒音の問題等、ごく現実的な選択のための条件を除けば、「ごみは人目に付かないうちに処理してしまうのがプロのワザ。夜間収集はその第一歩」という現場サイドの古典的な思いと、「住民が自ら排出したごみの行方に責任を持ち、分別・リサイクルを徹底するためには昼間であるべきだ」という現代の主流をなす考え方、言ってみれば、「サービスの向上」と「排出者責任」という2つのキーワードの間で賛否両論相半ばしているのが夜間収集を取り巻く状況です。

しかし、いずれにしても、〈夜間派〉の言うように「排出の利便性のために夜間収集を」というためには、収集の完全民営化が不可欠ではないでしょうか。朝の慌ただしい時のごみ出しを避けるために夜間収集をするというのは、税金を使った事業が行うサービスレベルを超えているような気がするからです。

人の利便性に対する要求レベルは止めどがありません。なにしろ、夜遊びのために夜間収集に間に合わず、「なんで出しといてくれなかったのよ」と逆ギレする人もいるのですから……と、時にいがみ合いつつも試みた家庭内環境教育ですが、今回で終わりとさせていただきます。

「環境教育はむずかしい」

それが、今の率直な感想です。 (中間派)